

春日井ロータリークラブ 2017～2018年度 WEEKLY REPORT



クラブテーマ

～ロータリアンの第一歩は、まず例会に出席しよう
そして、会員同士をよく知り「アットホーム」なクラブにしよう～

会 長 : 近藤 太門 例会日 : 金曜日 12:30～13:30
副 会 長 : 加藤 久仁明 例会場 : ホテルプラザ勝川
副 会 長 : 野浪 正毅 事務局 : 春日井市鳥居松町5-45
幹 事 : 加藤 宗生 T E L : (0568) 81-8498
会報委員長 : 古屋 義夫 F A X : (0568) 82-0265
E-mail : Ksgi-rc@gaea.ocn.ne.jp

ふれあい緑道

本日のプログラム

2017年12月21日(木)2350回(12月第4例会)

- | | |
|--------------|----------|
| 司会 | 会場委員会 |
| ・点 鐘 | 近藤 太門君 |
| ・ROTARY SONG | 「奉仕の理想」 |
| ・今月の歌 | 「きよしこの夜」 |
| ・ビジター紹介 | 近藤 太門君 |
| ・委員会報告 | |
| ・会長挨拶 | 近藤 太門君 |
| ・幹事報告 | 加藤 宗生君 |
| ・点 鐘 | 近藤 太門君 |
| ・クリスマス家族会 | 親睦委員会 |

幹事報告

幹事 加藤 宗生君

☆12月21日(木)クリスマス家族会18時～
名古屋ホテルマリオットアソシアホテル

☆平成30年1月5日 休会 定款8-1

☆平成30年1月12日(金) 17時～ 若草
第7回理事役員会

☆平成30年1月12日(金) 18時 さくら
新年例会

今月の歌

きよしこの夜
きよしこの夜 星はひかり
救いの御子は み母のむねに
眠りたもう 夢やすく

◎例会休会のお知らせ

- 名古屋空港RC 1月1日(月)休会
- 名古屋栄RC 1月1日(月)休会
- 羽島RC 1月2日(火)休会
- 犬山RC 1月2日(火)休会
- 名古屋城北RC 1月2日(火)休会
- 名古屋大須RC 1月4日(木)休会
- 江南RC 1月4日(木)休会
- 名古屋葵RC 1月4日(木)休会
- 尾張旭RC 1月5日(金)休会

先週の記録

会長挨拶

会長 近藤 太門君

皆さん、今年の通常の例会も今日が最後になりました。「西年はいろいろと大変な年になる」と評論家の誰かが言っていましたが、まさに国内的にも世界的にもなかなか大変な年でした。先日清水寺の神主の「今年の一文字」が、「北」でした、この北の字の付く国は世界平和を震撼させる、正に北の一文字でした。いろいろと沢山の問題を抱えたままの年越しになりますが、この事態が少しでもいい方向に解決して行く事を来年の戌年には期待したいと思います。

出席報告

委員長 梅村 守君

会員 52名	欠席 22名	出席率 57.6%
先々週の修正出席	欠席 5名	出席率 90.3%

ニコボックス報告

委員長 芝田 貴之君

○堀部先生のお話を楽しみにしています。

近藤 太門君

○母方の親戚のある浦河より昆布が送られて来ました。素晴らしい光沢です。

山田 治君

○堀部先生をお迎えして。

社本 太郎君

疫病予防と治療月間

例会予定	1月5日(金) 休会(定款8-1)	1月12日(金) 第7回理事役員会 17:00～ 新年例会(夜間例会)	1月19日(金) 祝福 第4回クラブ協議会 13:30～	1月26日(金) 卓話 易 敏様 米山奨学生
------	----------------------	---	------------------------------------	------------------------------

ホームページ: <http://www.kasugai-rc.jp>

E-mail: ksgi-rc@gaea.ocn.ne.jp

○インフルエンザが流行期に入りました。手洗い、うがいを忘れずに。 川瀬 治通君

○12月17日 ケローナの夕べ、お出掛け下さい。 青山 博徳君

○今年一年ありがとうございました。 藤川 誠二君

○本日、司会です。よろしくお願ひします。 下田 育雄君

○堀部先生をお迎えして。

足立 治夫君 稲垣 勝彦君 梅村 守君

大原 泰昭君 岡本 博貴君 小川 茂徳君

小川 長君 小野寺 誠君 小柳出和文君

風岡 保広君 加藤久仁明君 加藤 茂君

加藤 宗生君 貴田 永克君 近藤 秀樹君

清水 勲君 宅間 秀順君 朽本 正樹君

成瀬 浩康君 野浪 正毅君 古屋 義夫君

屋嘉比良夫君 和田 了司君

卓話

中部大学応用生物学部 助教 堀部 貴紀氏

中部大学でサボテンの研究をしています、堀部貴紀と申します。春日井商工会議所が進めている「春日井サボテンプロジェクト」にも専門家として参加させて頂いています。また国際交流活動としてメキシコの大学や企業との共同研究や在日メキシコ大使館との連携を進めております。本日は皆様に「世界のサボテン産業」と「春日井のサボテン産業の可能性」について簡単にご紹介致します。皆様はサボテンがこれまで人の生活を支え、環境を改変し、またこれから世界を変えうる可能性を秘めていることをご存じでしょうか？サボテンは紀元前からラテンアメリカ地域で様々な用途に利用されてきました。現在でもウチワサボテンの果実や茎は野菜や家畜飼料、加工品として世界の広い地域で消費され、化粧品や医薬品の原料にも使われています。またその著しい環境ストレス耐性が注目され、近年では砂漠化や土壌侵食の防止にも利用されています。しかしその驚異的な生命力が裏目に出て、導入された国で生態系を攪乱することもあり、実際にオーストラリアや南アフリカではウチワサボテンは侵略的外来種として駆除の対処になっています。サボテンは遅くとも1690年頃には日本に渡来していたと考えられています。長期間に渡りサボテンは貴重品であり一部の趣味家が保持するのみでしたが、1900年頃にはサボテンの生産と販売を行う園芸店が出現しました。その後日本全国で生産農家や通信販売業者が現れ、1930年頃にはサボテンは大流行します。1950～1960年頃にはドイツやオランダ、アメリカなどに輸出も行われていました。現在でもサボテンは多肉植物とともに観賞植物としての地位を

確固たるものにしてしています。国内各県のサボテン出荷量の統計調査は現在行われていませんが、2006年の時点では愛知県が1位であり、岐阜県、埼玉県が続きます。意外なことに気候がサボテンの生育に適している九州・沖縄地方の出荷量は非常に少なくなっています。日本でサボテンはあくまで観賞植物であり、野菜や食品として認識されていませんが、食用サボテンを使った地域活性化を目指している地域が日本に1つだけあります。それが「サボテンのまち」と呼ばれる愛知県春日井市であります。春日井市は種から観賞用のサボテンを育てる実生栽培で知られており、過去には出荷量全国一位の実績も持つサボテン産地です。しかし現在は農家の高齢化と後継者不足が深刻な問題となっており、存続が危ぶまれる状態に陥っています。このような状況を打破するため、春日井市ではサボテンを利用した地域活性化を目指す取り組み「春日井サボテンプロジェクト」が行われています。具体的な取り組みとしては、ノパルを使った商品開発、料理教室の開催、マスコットの開発、LINEスタンプの作成など多様な活動が実施されてきました。春日井サボテンプロジェクトにより春日井のサボテン産業は地域ブランドとして一定の地位を確立しましたが、未だ「強い産業」になるには至っておらず、多くの市民に利益をもたらすことはできていないのが現状です。しかしながら、食用サボテンは日本で新しい機能性野菜として大きなポテンシャルを有しており、今後様々な展開が期待できる農業シーズです。今後、我が国でも健康的な野菜や加工品原料として食用サボテンの需要が増加することも十分に考えられます。サボテンはワシントン条約により輸出入の規制を受けることもあり、国内有数の産地である春日井市は日本の観賞用・食用サボテン産業にとって最重要拠点です。従って春日井サボテンプロジェクトの持つ意義は地域の活性化にとどまらず、日本のサボテン産業全体の活性化にもつながるものであると個人的に思っています。私の研究室や中部大学の持つ研究力を加えることで、春日井のサボテン産業をより強くできないか？在日メキシコ大使館と春日井市との連携を実現することで、「サボテンの聖地(メッカ)」であるメキシコと「サボテンのまち」春日井市の双方に利益をもたらす事はできないか？現在、様々なアイデアや活動を春日井のサボテン関係者の方々と具体化しております。2018年3月には春日井サボテン産業の将来を考えるためのイベントの開催も計画しております。皆様にこれからの「サボテンのまち」の取り組みに注目して頂きたいと思っております。今後ともよろしくお願ひ致します。

会長挨拶



役員 ロータリー財団 成瀬 浩康君



卓話 中部大学応用生物学部 助教 堀部 貴紀氏



役員 直前会長 近藤 太門君



例会風景

